

第 3 学年 社会科 学習指導案

日 時 平成20年11月20日(木) 5校時
場 所 3年3組教室
生 徒 3年3組
男17名、女15名、計32名
授 業 者 教諭 志田 智明

1 単元(題材)名

第4章 地球社会とわたしたち 2. 地球社会の危機を救うために

2 単元(題材)について

(1) 系統性

本単元は中学校学習指導要領の公民的分野、2 内容の(3)現代の民主政治とこれからの社会のウにあたる。

[公民的分野]

2 内容 (3) 現代の民主政治とこれからの社会

ウ 世界平和と人類の福祉の増大

世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力が大切であることを認識させる。その際、日本国憲法の平和主義について理解を深め、我が国の安全と防衛の問題について考えさせるとともに、核兵器の脅威に着目させ、戦争を防止し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育てる。また、人類の福祉の増大を図り、よりよい社会を築いていくために解決すべき課題として、地球環境、資源・エネルギー問題などについて考えさせる。(下線は授業者)

下線部の3点が、内容の取扱いのウで、次のように書かれている。

3 内容の取扱い

ウ ウについては、次のとおり取り扱うものとする。

(ア) 地理的分野、歴史的分野との関連を図り、その学習の成果を生かす工夫を行うこと。

(イ) 「世界平和の実現」については、領土(領海、領空を含む)、国家主権、主権の相互尊重、国際連合の働きなど基本的な事項を踏まえて理解させるように留意すること。なお、国際連合などを取り上げる際には、主要な組織とその働きなどの基本的な理解にとどめること。

(ウ) 「国家間の相互の主権の尊重と協力」との関連で、国旗及び国歌の意義並びにそれらを相互に尊重することが国際的な儀礼であることを理解させ、それらを尊重する態度を育てるよう配慮すること。

(エ) 「地球環境、資源・エネルギー問題」については、適切な課題を設けて行う学習を取り入れるなどの工夫を行い、国際的な協力や協調の必要性に着目させるとともに、身近な地域の生活との関連性を重視し、世界的な視野と地域的な視点に立って追究させる工夫を行うこと。

本単元は公民的分野の学習の最後であるだけでなく、中学校社会科の最後の単元である。これまでの学習で培った知識、能力を活かした学習を進めることが必要である。本時の授業では(エ)の部分を中心に扱う。

公民的分野は、地理的分野・歴史的分野との関連を図り、学習の成果を活かすことが必要である。公民的分野だけでなく、地理的分野にも「地球環境、資源・エネルギー問題」を扱った単元がある。

[地理的分野]

2 内容 (3) 世界と比べて見た日本

(ウ) 資源や産業から見た日本の地域的特色

世界的視野から見て、日本はエネルギー資源や鉱物資源に恵まれていない国であること、土地が高度に利用されていること、産業の盛んな国であることといった特色を理解させるとともに、国内では地域の環境条件を生かした多様な産業地域がみられること、環境やエネルギーに関する課題などを抱えていることを大観させる。

「地球環境、資源・エネルギー問題」について、地理的分野では「大観」に過ぎなかった学習が、公民的分野では「追究」する高度な学習に変化している。そのため公民的分野では「適切な課題を設けて行う学習」が取り上げられている。

日本は島国であり資源に乏しいため、「地球環境、資源・エネルギー問題」が我々の生活に直接に結びつく。解決のためには一国家だけの対応ではなく世界的な対応が迫られている。「地球環境、資源・エネルギー問題」を学習することが国際社会を考えることにつながる。

中学校社会科の最後の単元で、現代社会の問題に関する諸資料を扱い考察することで、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者であることを強く意識させ、学習指導要領の目標の達成を目指す。

(2) 教材について

2008年3月28日に新学習指導要領が告示された。2009年4月1日～2012年3月31日の移行期間については2008年6月13日の「小学校及び中学校の学習指導要領等に関する移行措置並びに移行期間中における学習指導について（通知）」で次のように示されている。

第2 中学校等の移行期間中の教育課程について

3 各教科等ごとの特例の概要等

(3) 国語、社会及び音楽については、全部又は一部について新中学校学習指導要領によることができることとするが、現行中学校学習指導要領による場合には、新中学校学習指導要領に定める内容の一部を追加又は適用することとしたこと。

移行期間における新学習指導要領の実施算数・数学及び理科を除く各教科では学校の判断となっているが、完全実施を意識して日々の授業を行っていくことが必要となる。

新学習指導要領で「地球環境、資源・エネルギー問題」を扱った部分は次のように記述されている。

2 内容 (4) 私たちと国際社会の諸課題

ア 世界平和と人類の福祉の増大

世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを認識させ、国際社会における我が国の役割について考えさせる。その際、日本国憲法の平和主義について理解を深め、我が国の安全と防衛及び国際貢献について考えさせるとともに、核兵器などの脅威に着目させ、戦争を防止し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育てる。また、地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解させる。

イ よりよい社会を目指して

持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究させ、自分の考えをまとめさせる。（下線部は授業者）

新指導要領では課題を探究させる観点として「持続可能な社会を形成する」が示されている。

「地球環境、資源・エネルギー問題」に関しては、1992年の「環境と開発に関する国際連合会議」、さらには2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議」で持続可能な開発を行うことが世界的な考えであることが示されている。

本時では、資源に限りがあること、電力を生み出すための化石燃料以外のエネルギー源が扱われている。現在、世界で最も使用されている一次エネルギーは化石燃料である。2006年では、石油・石炭・天然ガスを合わせた割合は一次エネルギーの全使用量の88.9%を占める。化石燃料は、いづれなくなるとの見方が一般的である。化石燃料はいづれなくなるとの見地から対策は2つ考えられる。

対策の1つは、化石燃料に頼らないエネルギー源の開発である。もう1つは、省エネである。

教育出版の公民142頁～143頁には、エネルギー源として原子力・太陽光・波力・風力・波力・燃料電池が取り上げられている。しかし、それぞれが利点・課題を併せ持つ。エネルギー源として今すぐに化石燃料の代替になるというものではない。

そのため、化石燃料を使用できる期間を伸ばすために世界規模での省エネも同時に必要である。

「化石燃料に頼らないエネルギー源の開発」を行いながら「省エネ」を行う。2つの対策の同時進行が「持続可能な開発」を行うという世界的な考えの中で現在進められている対策である。

本時の授業は、資料を読み取り、課題を設定し、討論を通して現代問題の解決のためにどうすべきかを考えるものである。「地球環境、資源・エネルギー問題」を扱うことは、新学習指導要領に書かれている「持続可能な社会を形成する」という観点にあてはまる。課題設定後、自分の考えをまとめさせ、討論を行い、他者との意見交流の中で深い探求が可能となる。

(3) 生徒の実態

現3年生の4学級全てで、平成20年3月と平成20年10月で同じアンケートを行った。アンケート項目は「授業の中で、学習の課題は理解できましたか」「授業の内容に興味がもてましたか」「授業の内容は、理解できましたか」「先生の説明や、作業の指示は、わかりやすいですか」「問題は何度も繰り返し解いてみましたか」「資料の読み取りはしっかりとできましたか」「資料を関連・比較させて考えることができましたか」「じっくりと考えた内容を、発表したり、書いたりすることができましたか」の8項目。結果は以下の通りである。

	項 目	A	B	C	D
1	授業の中で、学習の課題は理解できましたか	59.0	41.0	1.7	0.0
		49.2	48.3	2.5	0.0
2	授業の内容に興味がもてましたか	72.6	27.4	0.9	0.0
		66.7	31.6	1.7	0.0
3	授業の内容は、理解できましたか	55.6	44.4	4.3	0.0
		50.9	43.3	5.8	0.0
4	先生の説明や、作業の指示は、わかりやすいですか	78.6	21.4	0.0	0.0
		83.3	16.7	0.0	0.0
5	問題は何度も繰り返し解いてみましたか。	18.8	63.2	12.8	5.1
		17.5	42.5	35.8	4.2
6	資料の読み取りはしっかりとできましたか	51.3	47.0	1.7	0.0
		45.8	42.5	10.0	1.7
7	資料を関連・比較させて考えることができましたか	34.2	55.6	8.5	1.7
		20.0	59.2	20.8	0.0
8	じっくりと考えた内容を、発表したり、書いたりすることができましたか	26.5	62.4	7.7	3.4
		15.0	55.9	25.8	3.3

A：とても思う B：そう思う C：そう思わない D：全然思わない

上段：平成20年10月、下段：平成20年3月 単位：%

教科についての関心・意欲がたいへんに高く、授業にも前向きな気持ちで参加している生徒が多い。しかし、日常の反復が不足していることは2度のアンケートにおいて同様に言える。

今年度は、生徒の思考力・判断力を高めるために、資料の読み取り、グラフの読み取り、全体の場での発表、身近なテーマでの討論に取り組んできた。生徒はどの活動にも積極的に取り組んでいる。

(4) 指導にあたって

本単元では本時の授業で扱う「地球環境、資源・エネルギー問題」を初めとして、「世界平和の実現」、「国家間の相互の主権の尊重と協力」という現在の世界が直面している問題が扱われている。

どの問題もすぐに解決できるものではなく、様々な立場の意見がある。だからこそ資料を基に自分の考えを持ち、現在の諸問題を解決しようとする主体的な姿勢、考えを持つ生徒を育てたい。

(5) 校内研究との関わり

社会科における「基礎」は、社会的事象についての知識の習得、「基本」とは、資料等を探す

力、読み取る能力、読み取る能力ととらえている。社会科では、「基礎・基本」的な知識・技能、またその関連づけで社会的事象を考察することを「活用」と考えている。

これまで「基礎・基本」を定着させるために、さまざまな場面での問いの繰り返し、また、「基本」を定着させるために、資料を読み取る場面・発表できる場面、また両者を結びつけるような問いを意識的に増やし、そのような場面での時間を確保し、授業を行ってきた。

今回の授業では、資料の読み取り後に、討論を行い、「活用」の力を高めたいと考えている。

3 単元の目標

(1) 指導目標

世界と日本の諸問題の解決のために現在世界で行われている取り組みを知り、よりよい解決のための取り組みを考え、選択できる。

(2) 単元の評価規準

- 〈 関心・意欲・態度 〉・地球環境問題、経済格差から発生する問題等、世界と日本の諸問題についての理解を深める
- 〈 思考・判断 〉・様々な考え方があの中で、諸問題のよりよい解決のためにはどの考え方がよいのかを考え、判断することができる
- 〈 技能・表現 〉・資料の読み取り、話し合いを通して世界と日本の諸問題について考え、発表することができる
- 〈 知識・理解 〉・地球環境問題、経済格差から発生する問題等、世界と日本の諸問題についての理解を深める

4 単元の指導計画と具体的評価規準（6時間扱い）

次・時	学習活動	評価規準			
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
地球社会の危機を救うために 6	・地球環境問題を理解し、解決のための全世界の取り組みを知る	・地球環境問題が全世界規模のものであることに関心を持つ			・地球環境問題の6種の原因と顕著に問題が表面化している地域を理解する
	・資源を多く利用する電力分野について理解する		・発電方法の割合のグラフから各国の発電の特徴を考える		・電力を生み出すために使用される資源を理解する
	・CO ₂ 削減の観点から今後世界がどの発電を選択していくべきかを考える		・資料を判断基準にどの発電方法を選択すべきかをノートに書くことができる ・討論を通して考えがどのように変わったかを書く	・自分の考えを基にどちらの発電を優先させるべきか討論する	

	・先進国と発展途上国の格差から生まれる問題について考える	・教科書 145 頁の図から先進国と発展途上国の地域が偏っていることに興味を持つ		・教科書 145 頁の図から発展途上国のどの地域に多いかを読み取る	・経済の格差から国家間の問題が起きていることを理解する
	・発展途上国の支援のために国連・国家・NGO が果たす役割を知る				・発展途上国への支援が様々な形で行われていることを知る
	・世界的な平和のために国家を越えた取り組みが必要であることを知る	・国家を越えた取り組みを知り、これからの世界が進むべき方向に興味を持つ			

5 本時について

(1) 本時の目標

- ・資料を基に自分の考えを持ち、これから世界がどの発電方法を選択していくべきかを考えさせる。
- ・討論により、自分の考えを他者に伝えたり、他者の意見を自分の意見に取り入れたりすることができる。

(2) 本時の評価規準

学習内容	評価規準	具体の評価		規準の内容を実現していない生徒への対応・手だて
		十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	
・資料を判断基準にどの発電方法を選択すべきかをノートに書くことができる (思考・判断)	・発電方法の正負の面を資料から読み取る ・どの発電方法を選択すべきかをノートに書く	・発電方法の正負の面の読み取りを参考に、複数の資料を関連付けながら自分の考えをノートに書くことができる	・発電方法の正負の面の読み取りを参考に、自分の考えをノートに書くことができる	・教師が資料を説明する。また、周りの生徒との意見のやり取りをさせる
・自分の考えを基にどちらの発電を優先させるべきか討論する (技能・表現)	・資料を基にした自分の考えを他者に伝える ・他者の意見を取り入れながら自分の考えを発展させる	・資料を基に他者に自分の考えを伝え、さらに他者の意見を取り入れながら発展した発言をすることができる	・資料を基に他者に自分の考えを伝えることができる	・他者の意見をメモさせ、自分の考えを発表するように声がけをする
・討論を通して考えがどのように変化したかを書く (思考・判断)	・討論を通して原子力発電を選択すべきか、自然エネルギーによる発電を選択すべきかを書く	・討論の内容を十分に取り入れて、反対意見を尊重しながら自分の考えを理論的に書くことができる	・討論の内容を取いて、自分の考えを理論的に書くことができる	・討論を通してメモした内容を参考に自分の考えを再度書かせる

(3) 本時の展開

	学習過程と5つの視点	学習内容及び学習活動	○ 具体の評価規準 * 対応・手立て
導入 10分	1 地球温暖化の理解 【①興味関心が持てる】 2 発電方法の比較 3 課題設定 【②目的意識が持てる】	1 CO ₂ の削減が国際的な取り組みであることを理解する 2 CO ₂ 排出の観点から前時に学んだ発電方法を比較する 3 CO ₂ 排出の観点から火力発電を減らすとすれば水力・原子力・自然エネルギーの3種が有効であることを理解する	* 資料を配付し、CO ₂ 排出の多い発電方法を選択させる
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 課題 今後世界はどの発電方法を選択していくべきか </div>			
展開 30分	4 課題追究1 原子力発電と自然エネルギーによる発電の比較 【③予想・見通しが立てられる】 5 課題追究2 比較した内容の発表 【④所属感・貢献感が持てる】 6 課題追究3 討論	4 原子力発電の正負の面・自然エネルギーによる発電の正負の面を資料から読み取り、比較した内容をノートに書く 5 資料から読み取った正負の面を発表する 6 自分の考えを基にどちらの発電を優先させるべきか討論する	* 水力発電が立地の問題からこれ以上増やすことができないことを示し、原子力と自然エネルギーの2種に絞る。 ○ それぞれの発電の正負の面をノートに書くことができる (技能・表現) * 資料の読み取りを適宜助言する ○ 資料を判断基準として他者の意見を尊重しながら発言することができる (技能・表現) * 積極的に発言するように声かけをする。また、他者の意見でよいと思ったものはメモさせる
終末 10分	7 まとめ・発表 【④所属感・貢献感が持てる】 【⑤進歩感・成就感が持てる】	7 討論を通して考えがどのように変化したかを書く	○ 討論を通して他者の意見を知り、再度自分の考えを書くことができる (技能・表現)